

昭元 三三〇	隷属
奉天省鉄嶺に於て支那冰達軍總司令官の隷下に入らしめらる	
編成(假)完結	
部隊前進	
鉄嶺出発	
滿支國境山海關通過	
部隊任地着	
中支那江蘇省鎮江着	
第六四師団長の指揮下に入らしめらる	
増加配属	
第四野戦補充隊増加配属となる	
同日第四野戦補充隊長の指揮下に入る	
第四野戦補充隊長官内名	
陸軍少将 山本棟右衛門	
部隊隷属変更	
第六十一野戦補充隊より第四野戦補充隊増加配属部隊は第四野戦補充隊長隷下に入らしめらる	

(523)

2511

年月日	概
昭九四、三二	<p>部 隊 名 第四野戦補充隊通信隊 通信隊附 同 少尉 和田良孝 同 同 斎藤興俊 警 備 警備地区交付の急須江出発同日揚州着河地附近の警備勤務開始</p>
昭九五、一	<p>移 駐 第六師團と蘇北地区警備勤務継承交代（通信）</p>
昭一〇、一、二〇	<p>揚州出発 秦縣善前任務続行</p>
二、二	<p>復 員 軍令陸甲第十八号に依り第四野戦補充隊復歸編成</p>
二、五	<p>命 課 独立混成第九十旅団通信隊編成完結 通信隊長赴任後発令去し</p>

(524)

2512

八、一五	通信隊附	陸軍少尉	高田 駿
八、二〇	同	同	高田 駿
九、一〇	同	同	高田 駿
三、一一	大尉	中少尉三	連尉一
	技術下士官一	在生下士官一	主計下士官一
	兵二四五	狂生女三	
	馬匹 乘馬一頭	駝馬一六頭	駄馬一〇頭
	備置地	江蘇省兼吳	
	旅團長	陸軍少尉	山本 源右衛門
	要留中二三一〇	司令部	
	任務	滿洲完結後より引継ぎ旧才田野戦補給隊警備地区内警備(通信勤務)	
	隊長命課	昭二十一年四月二十九日	
	着任	桐畑立混成第九十旅団通信隊長	
	陸軍少佐	渡辺 吉也	
	終戦		
	命独立混成第九十旅団司令部勤務		
	旅団集結と共に江蘇省江都県揚州着		
	揚州出発 同日二日茨城県口岸茨城県附近の警備		

(525)

2513

年月日	
概	<p>十六 集結の爲口岸鎮止終</p> <p>十七 上海着</p> <p>三十七 帰還の爲上海港出帆</p> <p>三十二 佐世保港上陸</p> <p>異状なし</p> <p>部隊解散</p> <p>残務整理者</p> <p>独立混成九十板団通信隊長</p> <p>陸軍少佐 渡辺 吉也</p>
要	

(526)

2514

独立混成第九十二旅団略歴

陸軍少将 瓦田隆根

年月日	概	要
昭三〇、二一	軍令陸甲才一八号に依り独立混成才九十二旅団編成下令	
二〇、二二八	才十二 戦補充隊主力及才百十八師団其他よりの要員を以て蒙羅厚和、包頭、薩拉奇、平地泉、大同に於て独立混成才九十二旅団編成完備す	
	独立混成才九十二旅団長	陸軍少将 瓦田隆根
	独立混成才九十二旅団副官	陸軍少佐 林岩作
	同	陸軍中尉 菅原茂俊
	独立歩兵才六百十五大隊長	陸軍少佐 梶田義徳
	独立歩兵才六百十六大隊長	陸軍少佐 伊藤政治
	独立歩兵才六百十七大隊長	陸軍少佐 山内昌彦
	独立歩兵才六百十八大隊長	陸軍中佐 高浦儀作
	独立歩兵才六百十九大隊長	陸軍大尉 中野進
	独立混成才九十二旅団砲兵隊長	陸軍大尉 大場洋三
	独立混成才九十二旅団工兵隊長	陸軍少佐 横山右左衛門
	独立混成才九十二旅団通信隊長	陸軍中尉 岸村慶治
二〇、二二八	厚和出路河南省鄭城に向ふ	

(527)

2515

日 月 年	概 要
昭二〇、三、五	オ十二軍司令官の指揮に入り郎城着
二〇、三、一〇	オ百十五師団警備地区の任務継承し警備に任ず
二〇、三、二〇	北支那方面軍の隷下よりオ十三軍司令官の隷下に入る
二〇、三、二〇	独立歩兵オ六百十五大隊及同オ六百十七大隊は軍の直轄として老河口作戦に 参加
二〇、六、一二	郎城発
二〇、六、一七	独立歩兵オ六百十九大隊はオ十三軍隷下に復帰し オ六十五師団長の指揮に入 り、徐州附近に至る
二〇、六、二三	内地に着、内地附近の警備に任ず
二〇、七、二七	独立歩兵オ六百十六大隊長伊藤政行オ十三軍司令部附に
二〇、八、二七	陸軍大尉 近藤 忍 同大隊長に補せらる
二〇、九、一二	許昌集結の為内地発
二〇、九、一二	許昌着、集結
二一、四、一七	内地帰還の為許昌出發
二一、五、一五	上陸発給
二一、五、二二	仙崎上陸 復員
二一、五、二二	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の経歴は省略す

(528)

2516

独立歩兵第六一五大隊（至堅才二一六一部隊）略歴

年月日	概
昭二〇、二、一	軍令陸甲第十八号により独立混成才九十二旅団編成下令
	才十二野戦補充才一大隊を基幹とし独立歩兵才六一五大隊編成
	才四中隊陸軍中尉藤谷吉雄以下建制中隊は編成改正のため独立混成才九十二旅
	団根江歩兵才六一八大隊に転属
昭二〇、三、六	老河口作戦参加のため蒙疆薩拉音出發
昭二〇、三、二〇	河南省鄭州到着
	老河口作戦参加
	南陽——西峡口附近警備
昭二〇、八、二四	終戦
昭二〇、八、二五	帰還のため西峡口出發
昭二〇、九、一二	許昌到着
昭二〇、四、一六	内地帰還のため河南省許昌出發
昭二〇、四、二七	上海乗船
昭二〇、五、四	田辺港上陸

(529)

2517

独立歩兵第六十六大隊（至堅才一一六二部隊）略歴

陸軍大尉 丘 隆

忍

年月日	概	要
昭二〇、三、二八	才十二野戦補充隊歩兵才二大隊を以て独立混成才九二旅団独立歩兵才六一六大隊編成完結	
二〇、三、三	才十二野戦補充隊歩兵才二大隊の才八中隊を独立歩兵才六一八大隊へ転出	
二〇、三、三	才六二師団より下士官以下二四一名転入	
二〇、三、三	平地泉発	
二〇、三、三	利南省許昌着	
二〇、三、三	同地附近、主として鐵道沿線警備	
二〇、七、二七	第三中隊周家口、棧岡麓中隊主力汝墳橋警備	
二〇、七、二八	後才三中隊、才四中隊老河口作戦参加	
二〇、七、二七	大隊長 大尉近藤 忍着任	
二〇、八、一四	前大隊長 少佐伊藤政治は才十三軍司令部附に補せられ許昌出發	
二〇、九、三	終戦の大詔受発	
二〇、九、三	許昌発	
二〇、九、八	商邱着	
二〇、九、二六	商邱発	

之内
中
支
之

年月日	概要
昭三、三	許留者 集結
二、四、一六	内地帰還の者許留出務
二、四、二六	上海乗船
二、五、四	田返上陸
二、五、	二日前に於て復員完済
	帰還人員
	将校 三四、准士官 二、下士官 二三八、兵 七六九
	合計 一〇四三名
	入隊隠者 四三、生死不明 三
	所在不明者 一、敵属者 四
	死亡者 一九

(532)

2520

独立歩兵第百十七大隊略歴

陸軍少佐 山内昌彦

年月日	概 要
昭二〇、三、一一	<p>編成完結の状況</p> <p>独立混成中隊十二旅団編成下令せられ兼藤厚和に於編成に着手</p> <p>中隊十二野戦補充隊歩兵中隊三大隊主力を以て独立歩兵中隊六百十七大隊を編成</p> <p>編成を完結す</p> <p>其の状況左の如し</p> <p>編成</p> <p>大隊本部 歩兵四ヶ中隊</p> <p>機関銃一ヶ中隊 歩兵砲一ヶ中隊 通信隊一</p> <p>二 裝備</p> <p>連隊砲 二(四一式山砲一、一三式山砲一)</p> <p>大隊砲 一(九二式歩兵砲)</p> <p>迫撃砲 一(北支一九式)</p> <p>九二式機関銃 八</p> <p>軽機関銃 擲弾筒 小銃の約半数は北支一九式及チエフコ式軽機関銃なる</p>
昭二〇、三、一八	

(533)

2521

年月日	概要
	<p>も戦國に支障なし</p> <p>人員 一七八名</p> <p>総員 一七八名</p> <p>将校 三四名</p> <p>准士官 三名</p> <p>下士官兵 一三一一名</p> <p>将校は全員(除大隊)召集にして屍習士官一名なり</p> <p>下士官の大部は召集にして一部志願に依らざる現役下士官あり</p> <p>兵の約半数は現役兵にして其の大部は東北及北海道の出身者なし</p> <p>中隊長以上の氏名</p> <p>大隊長 陸軍少佐 山内昌彦</p> <p>大隊副長 陸軍少尉 鈴木次雄</p> <p>中隊長 陸軍中尉 橋本守英</p> <p>中隊長 小林辰吉</p> <p>中隊長 近藤卓雄</p> <p>中隊長 仲嶺真厚</p> <p>機関銃中隊長 全 小島要治</p>

(534)

2522

昭二〇、三、四	歩兵砲中隊長 全	遠見 恒彦
二〇、三、一七	通信 隊長 陸軍少尉	古川 修
二〇、三、一七	行動の概要及其の日時	
二〇、三、一七	才十三軍司令官の指揮に入るべく蒙疆厚出発	
二〇、三、一七	河南省履城縣孟廟に到着	
二〇、三、一七	才十二軍司令官の指揮下に於て吉武支隊長の指揮に入り老河口作戦に参加の爲	
二〇、三、三〇	膠城出発	
二〇、四、一五	河南省南陽県南陽城の攻取に参加	
自二〇、四、一七	河南省内郷県西峡口に到着才百十師団長の指揮に入る	
至二〇、五、一〇	才三十一集団軍圍城戦に参加	
自二〇、五、一〇	馬頭山、九條嶺の戦術及西峡口附近の警備	
至二〇、六、二六	河南省内郷県陽城附近の戦術及内郷民團軍掃蕩工作並に同地警備	
自二〇、六、二七	集中營集中の爲内郷県長葛出発	
至二〇、八、一五	河南省許昌県許昌集中營に集中	
二〇、八、二八	歸國の爲許昌出発	
二〇、九、一〇		
二一、四、一六		

独立歩兵第六百十八大隊（至堅第一五文四部隊）略歴

陸軍中佐 高 君 敏 作

年 月 日	概 要
昭二〇二一	軍令陸甲才十八号に依り独立親成才九十二旅団へ独立歩兵才六百十八大隊（臨時編成下令）
二〇二二五	旅團厚和に於て独立歩兵才六百十八大隊編成着手 才十二野戦補充隊才一大隊、才三大隊よりの各要員を基幹とし才百十八師団より一部編入す
二〇二二八	編成完結 大 隊 長 陸軍中佐 高 浦 儀 作 以下一七二名 才一 中隊長 陸軍中尉 影 谷 吉 雄 才二 中隊長 全 黒 田 隆 次 才三 中隊長 全 米 山 孫 義 才四 中隊長 全 林 田 敏 岡 機 肉 砲 中隊長 全 堤 謙 祐 歩 兵 砲 中隊長 全 石 田 富 福 通 信 隊 長 陸軍少尉 依 田 正 迪
二〇二二八	河南地区へ転進の爲厚和出發

年 月 日	概 要
昭二〇、三、九	河南省信陽県明港到着、同地区警備
二〇、六、八	老家口作戦の為明港出發
二〇、六、二一	河南省内郷県内郷到着、同地区警備
二〇、八、一四	停戦詔書拜受
二〇、八、二九	河南省内郷県内郷出發
二〇、九、一〇	河南省許昌県許昌到着
二一、四、一八	内地帰還のため河南省許昌県許昌出發
二一、四、二九	上海港に於て乗船
二一、四、三〇	上海港出帆
二一、五、二	佐世保港入港
二一、五、九	佐世保上陸
二一、五、九	除隊石集解除
	部隊総員 一、一七二名
	内地除隊 一〇、五三名
	現地除隊 二四名
	入院患者 四三名
	死亡者 二四名

(538)

2526

		所在不明	一名
	蔵入	蔵属	四五名
			一八名

外 中 支 子

(539)

2527

独立歩兵第六百十九大隊 略歴
陸軍大尉 仲野 靖

年月日	概	要
昭三〇、二、一	軍令陸甲第十八号に依り独立混成第九十二旅団独立歩兵第六百十九大隊編成下令	
二〇、六、二五	編成着手	
二〇、二、二八	蒙疆大同に於て編成完結	
二〇、三、二	大隊長 陸軍大尉仲野 靖以下一、一五六名	
二〇、三、一四	蒙疆大同出發	
自二〇、三、一四	河南省遂平県遂平着	
至二〇、六、一〇	河南省遂平地区の警備	
二〇、七、一	戦進の爲遂平出發	
二〇、七、一九	安徽省鳳陽県蚌埠到着	
自二〇、七、一九	安徽省鳳陽県蚌埠地区の警備	
至二〇、八、一四		
二〇、八、一四	停戦詔書發布	
二〇、九、二	停戦協定成立	

中支二

(540)

2528

二〇、九、二四	蚌埠出發
二〇、九、二五	江蘇省銅山吳徐州到着
二一、二、七	徐州出發
二一、二、一〇	江蘇省上海到着
二一、三、一三	内地帰還の為大隊長仲野
二一、三、一七	博多港上陸

蚌埠出發
 江蘇省銅山吳徐州到着
 徐州出發
 江蘇省上海到着
 内地帰還の為大隊長仲野
 博多港上陸

靖以下、三四名上海港出帆、遺骨二九柱

独立混成第九十二旅団砲兵隊（至堅才一―一六四部隊）略歴

陸軍大尉 大場 洋三

年月日	概	要
昭二〇、二、一	独立混成才九十二旅団編成下令	
二〇、二、二五	才十二野戦補充隊砲兵隊本部並同隊才八迫真砲中隊及才百十八師団よりニヶ中隊（迫真砲）を以つて編成着手	
二〇、二、二八	編成完結	
	砲兵隊本部	陸軍大尉 大場 洋三 以下五九名
	砲兵隊副官	陸軍中尉 五十嵐 吾次
	砲兵才一中隊	全 坂本 香彦 以下一五四名
	砲兵才二中隊	全 松田 博 以下一四九名
	砲兵才三中隊	全 佐藤 貞彦 以下一五二名
二〇、三、五	平地泉出發 河南地区に移動開始す	
二〇、三、二一	郎城附近に到着、同地附近の警備左記の如く位置す	
	砲兵隊本部、砲兵才二中隊	舞陽
	砲兵才一中隊	明港、碓山
	砲兵才三中隊	周家口
二〇、六、二四	内郷に集結、同地附近の警備に任ず	

(542)

2530

二、八、一四	終戦の大詔受発
二、八、二八	許昌に集結の為内郷出發
二、九、一〇	許昌に到着、同地に駐留
二、一、一七	砲兵隊長、陸軍大尉大場洋三、旅団司令部に出発
	旅団高級副官、陸軍大尉兼田民雄、砲兵隊長として赴任
	陸軍中尉 古賀卯八、砲兵隊副官を命ぜらる
二、四、一八	内地帰還の為許昌出發
二、四、三九	上海乗船
二、五、五	鹿児島上陸
	同日趣員完結

(543)

2531

第十二野戦補充隊砲兵隊略歴

陸軍大尉 林 治作

年月日	概	要
昭一九、二一〇	編成下令 滿洲哈爾濱	編成下令 滿洲哈爾濱
一九二二〇	編成担任部隊 独立守備歩兵才二十九大隊に於て編成着手	編成担任部隊 独立守備歩兵才二十九大隊に於て編成着手
一九二二〇	才一次編成(本部と一ヶ中隊)完結	才一次編成(本部と一ヶ中隊)完結
一九二二四	哈爾濱出發	哈爾濱出發
一九二二六	滿支國境(山海関)通過塘沽に到着 同地附近の警備に任ず	滿支國境(山海関)通過塘沽に到着 同地附近の警備に任ず
	内地整備要員松田中尉以下二四名塘沽に到着し才二次編成完結す	内地整備要員松田中尉以下二四名塘沽に到着し才二次編成完結す
	砲兵隊本部 陸軍大尉 林 治作 以下一七名	砲兵隊本部 陸軍大尉 林 治作 以下一七名
	砲兵隊副官 陸軍中尉 五十嵐 啓次	砲兵隊副官 陸軍中尉 五十嵐 啓次
	砲兵中隊 全 吉本 正 親 以下一六名	砲兵中隊 全 吉本 正 親 以下一六名
一九三、一三	趙各荘に移駐し、同地附近の警備に任ず	趙各荘に移駐し、同地附近の警備に任ず
一九三、二〇	才十二野戦補充隊の改編及増強に當り、砲兵中隊八九四式山砲四門に整備改編され、砲兵隊本部は新たに彈薬行李班(下士官一、兵一九、駱重車一九、輓馬一九)を編強せられ改編整備す	才十二野戦補充隊の改編及増強に當り、砲兵中隊八九四式山砲四門に整備改編され、砲兵隊本部は新たに彈薬行李班(下士官一、兵一九、駱重車一九、輓馬一九)を編強せられ改編整備す
一九四、八	初年兵二。名(現地召集)志願入隊し、砲兵中隊に編入す	初年兵二。名(現地召集)志願入隊し、砲兵中隊に編入す
一九四、二六	京漢作戦の爲趙各荘出發	京漢作戦の爲趙各荘出發

(544)

2532

自一九五、五、一六 至一九五、五、二六	京漢作戦に参加
一九七、三	洛陽出發
一九七、三七	蒙疆包圍に到着 同地附近の警備に任ず
一九、一、二七	包頭出發
二〇、二、二六	同日平地泉到着、同地附近の警備に任ず 吉本中尉以下三。五名、才百十八師團砲兵隊要員として戦出す 同日才十二野戦補充隊砲兵隊解散す

(545)

2533

独立混成第九十二旅団 工兵隊略歴

陸軍少佐 植山 治左衛門

年月日	概 要
昭三〇、二、一 二〇、二、二八	軍令陸甲第十八号に依り独立混成第九十二旅団臨時編成下令 オ十二野戦補充隊工兵隊及オ一一八師団よりの要員を以て包頭に於て編成完結
	工 兵 隊 長 陸軍少佐 植山 治左衛門 以下二十名 オ一中隊長 陸軍中尉 村上 喜一 以下二三一名 オ二中隊長 原 辰次 以下二三名
自二〇、三、六 至二〇、六、二二	包頭出発 郡城地区警備
自二〇、六、三〇 至二〇、八、三〇	馬籠嶺附近警備並に陣地構築（本部、オ一中隊）
自二〇、七、一 至二〇、八、三〇	面峡口附近警備並に陣地構築（オ二中隊）
二〇、八、二四	停戦詔書発布
二〇、九、一〇	許昌附近に集結
二一、四、一九	内地帰還の爲許昌出發

(546)

2534

外 中 支

二〇四元
二〇五元
二〇五元

上海乗船
上陸復員
復員完結

(547)

2535

第十二野戦補充工兵隊略歴

年月日	概略
昭一九二一〇	軍令陸甲才 男に依り才十二野戦補充隊臨時編成下令
一九二二〇	滿洲哈爾濱に於て編成着手 編成完結
一九二二四	工兵隊長 陸軍大尉 橋山 治左衛門(本部隊長以下一七名)
一九二二七	工兵隊長 陸軍中尉 田中 庄次郎(中隊長以下一五名)
一九四一五	哈爾濱出發
自一九五一七	冀東昌黎地区警備
至一九五二六	京漢作戦参加のため昌黎出發
自一九五二七	洛陽附近戦闘参加
至一九七四	洛陽附近警備
一九七五	洛陽出發
自一九七六	包頭附近警備
至二〇一三	

中支ニ

(543)

2536

三〇三三八
三〇三三八

獨立混成中隊二隊團工兵隊に編入
才十二騎隊補充隊工兵隊解隊

(547)

2537

独立混成第九十二旅団通信隊略歴

陸軍中尉 島村慶治

年月日	概要
昭二〇、二、一	軍令陸甲才一八号に依り独立混成才九十二旅団編成下令
二〇、二、二五	蒙疆厚和に於て才十二野戦補充隊通信隊を以て編成着手
二〇、二、二八	独立混成才九十二旅団通信隊編成完結
二〇、二、三三	通信隊長 陸軍中尉 島村慶治 以下二〇七名
二〇、三、一三	取進の爲厚和出發
二〇、三、一三	河南省鄭城県鄭城着
二〇、三、一三	同地附近の警備
二〇、三、一三	鄭城発
二〇、六、二五	河南省内稱泉着
二〇、八、一四	同地附近の警備
二〇、八、一四	停戦詔書發令
二〇、八、一四	集結の爲内郷発
二〇、九、一〇	許昌着
二〇、四、一七	内地帰還の爲許昌発

(530)

2538

二六四三七 二六五四四 二六五一二	上海乗船 田辺港上陸 復員完結
-------------------------	-----------------------

外 中 二

(557)

2539

独立歩兵第六旅団司令部（舊才七三五一部隊）略歴

陸軍中尉 留田 萬 男

年 月 日	概 要
昭 二 一 三 二 二 一 三 二 五	<p>駐屯地名 安徽省銅陵縣大通鎮</p> <p>出發 博多港上陸</p> <p>帰還人員 一〇二名</p> <p>將校 三、准士官 一、下士官 一九、兵 六九、軍屬 一〇、</p> <p>船名 LST Q〇四二号</p> <p>輸送指揮官 陸軍中尉 留田 萬 男</p> <p>遺品数 一個</p>

中支之

(552)

2540

独立歩兵第百十一大隊略歴

陸軍少佐 北村 周次郎

年月日	概 要
昭二九、二、三一	編成完結の状況 中華民國安徽省蕪湖に於て編成完結
自一九、四、五	部隊長 陸軍少佐 赤 羽 茂 市 以下一四二九名
至一九、五、五	一旅歩兵中隊 五ヶ 歩兵砲隊、通信隊 各 一
自一九、一、一	行動の概要 大隊本部は安徽省銅陵具銅陵に位置し魯港黃池具閩長江沿岸地区警備
至一九、一、三	兵站線設起、確保に任ず
自一九、二、八	一回四所垣支援作戦参加
至一九、二、二	皖江作戦参加
自一九、三、五	蘇東作戦参加
至一九、三、一	揚北作戦参加

(553)

2541

年・月・日	概 要
昭三、八、一五	停戦の大詔頒布せらる
三〇、一〇、三二	安衛省鋼陵具大通に部隊集結
二〇、一一、一四	武装解除
二六、一一、一五	内地帰還の為大通出発
二一、一二、二二	上海到着吳淞斗三兵舎に在りて乗船準備
二六、一二、一八	上海港出帆しS.T.R.ロ三九乗船
二一、一三、二二	博多港上陸 直ちに復員式等行し支々隊隊（百集解除）せし人員一一八一名
	残務整理者 三名
	入院者 四〇名
	生死不明者 一三名

(534)

2542

独立歩兵第二百十二大隊略歴

陸軍大尉 山口 善 内

年 月 日	概 要
昭一八二二〇	軍令陸甲才百十五号編制改正に依り独立歩兵才六旅団の編成下令
一八二二一〇	独立歩兵才二百十二大隊の編成を令せらる
一九二三一	中華民國安徽省蕪湖県蕪湖才六十一師団歩兵才百五十七連隊内に於て編成完結
一九二三一	旅団長陸軍少将 多田 保 の部下に入る
	大隊長 陸軍少佐 香田 孝一
	副官 陸軍少尉 高石 貞 茂
	才一中隊長 陸軍大尉 戸村 正 裕
	才二中隊長 陸軍中尉 吉井 貞 藏
	才三中隊長 全 柴 田 静 夫
	才四中隊長 全 相 沢 達 衛
	才五中隊長 全 網 野 新 左 衛 門
	歩兵砲隊長 全 栗 原 一 郎
	通信隊長 全 船 山 憲 一
一九三二	蕪湖出発
一九二二四	安徽省貴池県池州着 同地附近の警備

(573)

年月日	概要
昭二五、一	大隊長 陸軍少佐 香田 孝一
一九五、一	独立歩兵才二百十二大隊長 保定幹部候補生隊付 陸軍大尉 山口 善次
一九一、三	大隊(才二中隊欠)は安慶集結のため池州出發
一九一、四	安慶着 同地附近の警備
二〇二、一七	才四中隊浙江省紹興警備のため派遣
二〇三、一三	大隊(才二、才五中隊を安慶に殘置)は独立混成才九十旅団に配属を命ぜられ安慶出發
二〇三、二四	才四中隊上艇に於て諜下に復歸す
二〇四、四	江蘇省海門県三廠に到着 同地附近の警備
二〇八、一五	同地に於て終戦に至る
二〇八、三〇	崧嶺集結のため三廠出發
二〇八、三一	南通県南通着
二〇九、一	南通に於て原駐地に復歸の上、原任務の遂行を命ぜらる
二〇九、二	原駐地復歸のため南通出發
二〇九、四	海門県三廠着 同地附近の警備

内 支 二

(536)

2544

三〇、九、一〇	<p> 第十三軍作命に基き新たに洛東支隊の編成を命ぜられ独立歩兵第百二十七大隊及南通憲兵分隊並蘇北運給部南通支部の配属を受け第十三軍直轄部隊となり 南通三廠並天生港、青龍港の警備確保に任ず </p>
二一、一、一八	<p> 中国匪軍第百七十一軍、第百八十七師、第百六十一團に依り留岳の接收を受け防務を交代す </p>
二一、二、一三	<p> 上掲集結の爲三廠出発 </p>
二一、二、一五	<p> 上掲着吳淞第百三兵舎に官營 </p>
二一、三、一三	<p> 帰還のため上海港出帆 </p>
二一、三、一四	<p> 博多港上陸 部隊解散 </p>

(557)

2545

独立歩兵第二百十二大隊第五中隊略歴

陸軍大尉 堀 正弘

年月日	概	要
昭和一九一、三一	中華民国安徽省懷遠に於て編成完結	
自一九二、八	兵力 二四九(指揮班、四ヶ小隊編成)	
至二〇、八、一五	安慶に位置し蕪湖―湖口間の長江沿岸警備、傍ら旅団教育隊を兼ね	
一九四、一三	一四四師支隊作戦に於て戦死四	
一九六、一一	安慶附近空地戦闘に於て戦死四	
一九七、七	皖南夏季討伐に於て戦死、戦病死者一	
一九八、五	皖南夏季討伐終了後戦病死者一	
一九、一、三一	皖江作戦終了後戦病死者一	
二〇、三、九	蕪北作戦に於て戦死二	
二〇、四、二四	蕪北作戦終了後戦病死者一	
二〇、六、二六	警備中戦病死者一	
二〇、八、八	警備中戦病死者一	
二〇、八、一五	停戦の大詔拜受	
二〇、九、一五	安徽省銅陵皇大通に移駐	

(539)

2547

9 内 中支之

年月日		概 要
自昭三〇、九、二〇 至二一、二、一五		長江沿堤（荻港—貴池間）の修築作業参加
二一、二、一五		内地帰還のため大通港出航
二一、三、二五		上海北受松才二兵舎到着、同地に於て乗船準備
二一、三、一四		上海港出港
二一、三、一九		博多上陸 同日同地に於て復員式挙行 持校以下二四五名 除隊名集解除（持校 三、下士官 三一名、兵二一一名）

(560)

2548

独立歩兵第二百十三大隊（陸才七三五四部隊）略歴
 陸軍少佐 山部 三和二

年 月 日	略 歴
昭一、九、一、三	軍令陸甲才百十五号に依り中華民國安徽省滁縣に於て独立歩兵才二百十三大隊編成完結
一九二、一、四	編成地出發 新駐地安徽省東流縣東麓へ
一九二、二、一	新駐地東麓着
	同地附近の治安警備
一九三、一	大隊行季班編成す
一九三、一	直轄小隊編成直接警戒に任ず
一九五、五	大隊直轄作業小隊編成
一九四、一、五	兵站道路構築の爲 工兵才二十九連隊と共に約三月間工事をなす
一九八、二	大隊直轄機銃小隊、迫撃砲分隊編成す
一九一、三、六	補充員として四七八名、中部才四部隊より到着 同日より教育訓練に邁進す
二〇、二、二五	独立混成才九一旅団独立歩兵才六三五大隊編成 要員として三〇〇名出發す
二〇、四、一三	才一次本土兵備強化要員として松田少尉以下四名出發

(561)

2549

年・月・日	概 要
昭三〇、五、三〇 自二〇、五、二八 至二〇、六、五	才二次本土兵備強化要員として石橋中尉以下二二名出發す 才一期初年兵檢閲実施
二〇、八、一五 二〇、九、一四	停戦命令公布せる 安衛省東航員出發 繁昌員荻港に移駐
三〇、一、一五 三〇、二、二二	同地附近の治安警備 安衛省銅陵員大通へ部隊集結の為荻港出發 武装解除
二一、三、一四 二一、三、二二	同日より同地に駐留 復員の為安衛省銅陵員大通出發 上海着
二一、三、一九 二一、三、二四	上海港出發 博多港上陸 同日復員完結
	人員内訳 復員者 一一九一名

(562)

2550

現 地 除 隊 者	行 方 不 明 者	死 歿 者	入 院 患 者
五 口 名	九 名	四 六 名	四 四 名

(563)

2551

独立歩兵第二一四大隊略歴

陸軍大尉 坂田惣市

年月日	概要
昭一九一三	軍令陸甲才一一五号に依り中華民國江蘇省南京に於て編成完結
一九二一	移駐のため南京出發
一九二七	安徽省懷甯縣安慶に移駐
自一九三二 至一九三四	安徽省桐城県大横山附近の戦闘
自一九四一 至一九五一	一四四師支援作戦に参加
自一九五三 至一九五三	編成業務並に南京及安慶地区の警備
一九六六	陸軍中尉白井延辰以下二六一名、補充要員として歩兵分六連隊補充隊より 転入

(564)

2552

自一九六一 至一九九三〇	安慶地区警備並戦闘
一九二一六	陸軍二等兵 五十歳 第也四七七名歩兵中六連隊補給隊より現役兵として 転入
一九二三五	陸軍准尉 佐藤武夫以下三一四名 独立混成中隊一旅団独立中隊三五大隊要員 として転出
自一九〇一 至一九四三〇	安慶附近治安肃正
一九五五	陸軍中尉 三谷孝一以下七名中一次本土兵備要員として転出
一九五三〇	陸軍大尉 柴田雄七以下七名中二次本土兵備要員として転出
一九八一四	大東亞戦争終戦に因する大詔喚発せらる
一九九一四	後駐の反め安慶出發
一九九一七	安徽省銅陵県大通着

年月日	概 要
昭二〇、二、二六	中国軍第一七六師團が五二八團と警備交代
二〇、二、二七	武装解除
自二〇、五、一	同日安慶区大通集中營に入る
至二〇、二、三二	安慶附近の警備並大通駐留
二一、三、一六	内地帰還のため大通出発
二一、三、二四	上海着
二一、三、二四	上海出発
二一、三、二八	博多上陸
	同日復員式後除隊百策解除

(566)

2554

独立歩兵第二一四大隊(釐沖七三五部隊)略歴

陸軍中佐 遠藤興邦

年月日	概要
昭一九一、一三一	第令陸甲イ一五号に依り中華民國江蘇省南京に於て編成完結
一九二一、一六	南京出發
一九二一、一七	安慶着
自一九三、二	安徽省桐城县大榭山附近の戦闘
至一九三、四	
自一九四、一	一四四師支隊作戦参加
至一九五、一〇	
自一九一、三	編成業務並に南京及安慶地区の警備
至一九五、三	
自一九六、一	安慶地区警備並に戦闘
至一九九、三〇	
自一九〇、一	皖江作戦
至一九一、三	
自二〇、一	安慶附近治安維持
至二〇、四、三〇	

(567)

2555

ノ
カ
中
支
ノ

年 月 日	概 要
昭三、九、一四	移駐のため安慶出発
二〇、九、一七	銅陵県大通着
二〇、一〇、一六	中国軍第一七六師が五二八団と警備交代
二〇、一〇、一七	武装解除 同日安慶地区大通集中營に入る
自二〇、五、一	安慶附近の警備並大通駐留
至二〇、一、三二	内地帰還のため大通出発
二〇、三、一六	上海着
二〇、三、二四	上海出発
二〇、三、二八	博多着 上陸後復員式除隊百集解除

(528)

2556

独立歩兵第六旅団通信隊略歴

陸軍大尉 藤森 史君

年月日	概要
昭一九、一、三一	<p>中華民國首都南京に於て編成完結</p>
自一九、三、八	<p>兵カ一一名、馬匹一頭、有線一ヶ小隊（二ヶ分隊） 無線一ヶ小隊（六ヶ分隊）</p>
至一九、八、一五	<p>安慶に位置し蕪湖—湖口間の長江沿岸警備</p>
一九、七、七	<p>才一四四師支援作戦行動終了後戦病死一名</p>
一九、七、二〇	<p>幹線保護與池田新四軍三〇〇と交戦戦死一名</p>
一九、八、一五	<p>停戦の大詔拜受</p>
一九、九、一五	<p>安徽省銅陵見大通に移駐</p>
自二〇、九、一五	<p>同地に於て帰還準備の傍、対華寄与として長江江堤（荻港—貴池間）の修築</p>
至二一、二、一五	<p>作業に参加</p>
二一、二、一五	<p>帰還のため大通港出航</p>
二一、二、二三	<p>上海北長浜才二兵舎到着 同地に於て乗船準備</p>

(527)

2557

ソ外 午之

昭三三二四
三三一九

日
日

概

上海港出航
博多上陸
同日同地にて復員式等行
兵力 将校以下一四八名除隊百集解隊

要

(570)

2558